

自動車・同部品・タイヤ

1. 評価対象企業（20 社）

トヨタ紡織、横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、日産自動車（再評価）、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、NOK、アイシン精機、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機、小糸製作所、豊田合成

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	22
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	11
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	25
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	22
計		18	100

（注）評価項目の内容および配点は 76 頁参照

(2) 評価実施アナリストは 21 名（所属先 17 社）である。（77 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（75 頁）参照）

① 本年度は、全 5 分野において、内容変更、配点変更（内容変更を含む）または項目削除を行い、評価を実施した。また、再評価（注）の企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 68.3 点（昨年度 68.0 点）、総合評価点の標準偏差は 7.0 点（昨年度 8.5 点）であった。

（注）「再評価」企業とは、2 年以上前に評価対象としたことがある企業をいう。

② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、自動車メーカー（10 社：日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機）70.3 点（昨年度 71.1 点）、自動車部品メーカー（7 社：トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、NOK、アイシン精機、小糸製作所、豊田合成）67.0 点（昨年度 64.2 点）タイヤメーカー（3 社：横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業）64.0 点（昨年度 68.7 点）となり、自動車部品メーカーを除き、昨年度を下回った。また、自動車メーカーが他の業態を上回ることに変わりはなかった。

③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 71%（昨年度 72%）、説明会等が 72%（昨年度同率）、フェア・ディスクロージャーが 85%（昨年度 83%）、コーポレート・ガバナンス関連が 61%（昨年度 59%）、自主的情報開示が 63%（昨年度 61%）となった。なお、コーポレート・ガバナンス関連および自主的情報開示が昨年度に比べやや上昇したものの、他の分野に比べ、低水準にとどまった。

④ 評価項目について見ると、次の5項目は平均得点率が80%以上となり、高水準となった。特に、フェア・ディスクロージャーの3項目（下記(a)(b)(e)）については昨年度に比べ改善した。

- (a) 「ウェブサイト、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていますか」（平均得点率99%（昨年度95%））（得点率（評価点/配点（以下省略））：100%17社・90%3社）
- (b) 「ウェブサイトや説明会資料等の英語対応がなされていますか」（平均得点率95%（昨年度88%））（得点率：100%18社）
- (c) 「社長またはCEOが会社主催の説明会（テレフォンカンファレンスを含む）に必要に応じて適宜出席していますか」（平均得点率89%（昨年度91%））（得点率：90%台16社）
- (d) 「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払い、情報開示を積極的に行っていますか」（平均得点率81%）（得点率：80%台15社）
- (e) 「説明会のリプレイは、説明会終了後、電話やウェブキャストで視聴できますか」（平均得点率80%（昨年度72%））（得点率：100%13社）

⑤ 一方、次の2項目は、昨年度に比べ、同率またはやや改善したものの、平均得点率が50%台にとどまった。

- (f) 「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか」（平均得点率54%（昨年度51%））（得点率：20%台2社・30%台4社・40%台3社）
- (g) 「資本政策および配当政策・自社株買いなどの株主還元策の考え方を十分に説明していますか」（平均得点率58%（昨年度同率））（得点率：40%台4社・50%台5社）

⑥ 非財務情報関連の次の項目（自主的情報開示の中の1項目）は、昨年度と同程度となった。

- ・「非財務情報（統合報告書、ファクトブック、ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率71%（昨年度70%））（得点率：50%台1社・60%台6社・70%台10社・80%台3社）

⑦ なお、政策保有株式（持ち合い株式等）を有する会社に対して、保有の意義をより詳細に説明してほしいとの声が寄せられたほか、自動車メーカーに対して、環境規制に対する戦略開示を望む声も寄せられた。

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 豊田合成（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点79.1点〔昨年度比+0.4点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連が第1位（得点率（以下省略）71%）、経営陣のIR姿勢等（82%）、説明会等（80%）が第2位、自主的情報開示が第3位（78%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第5位（92%）となった。昨年度に比べ、コーポレート・ガバナンス関連の得点率が改善したことが総合評価点および順位の上昇につながった。なお、自動車部品メーカーとして初の第1位獲得である。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「社長またはCEOが会社主催の説明会（テレフォンカンファレンスを含む）に必要に応じて適宜出席していること」が同得点第1位となった。また、「全体として経営陣のIR姿勢（経営トップの参加、IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）」が第2位、「アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR改善の努力が十分であること」が同得点第2位となった。これに関し、アナリスト・投資家との対話にトップ・マネジメントが積極的との声や、IR部門の情報発信は頻度が多く、質、内容共に向上しているとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、説明資料等において、「事業種類別および地域別セグメント情報が、継続性にも配慮し、実態を表し分析に有用な形でわかりやすく、十分に記載されていること」および「実績および計画ベースの利益増減要因が、継続性にも配慮し、実態を表し分析に有用な形でわかりやすく、十分に記載されていること」が共に同得点第1位となった。これに関し、地域別に増減要因分析が開示されていることを評価する声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイト、過去の長期財務データ等、当該企業を分析する

ために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていること」、「ウェブサイトや説明会資料等の英語対応」および「説明会のリプレイが、説明会終了後、電話やウェブキャストで視聴等できること」が共に満点評価となった。これに関し、決算説明会での質疑応答や会社イベントの概要をウェブサイト上に公開している積極的な情報発信や、メールによる案内を評価する声が寄せられた。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中・長期経営計画（例えば、営業利益率、ROE 等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること」および「資本政策および配当政策・自社株買いなどの株主還元策の考え方を十分説明していること」が共に最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「非財務情報（統合報告書、ファクトブック、ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が最も高い評価となった。この点に関し、ESG 説明会を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 SUBARU（総合評価点 78.5 点〔昨年度比－1.4 点〕、昨年度第 1 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（85%）、説明会等（82%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（94%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 3 位（68%）、自主的情報開示が第 5 位（73%）となり、第 2 位となったが、トップとは僅差であった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「全体としての経営陣の IR 姿勢（経営トップの参加、IR の重要性の認識、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）」および「IR 部門への十分かつ正確な情報の集積度、アクセスの容易性、IR 部門以外へのアレンジ機能が十分であること」が共に最も高い評価となった。また、「社長または CEO が会社主催の説明会（テレフォンカンファレンスを含む）に必要な応じて適宜出席していること」が同得点第 1 位に評価された。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。これに関し、定期的なマネジメントミーティングの開催などの経営陣の IR 姿勢を評価する声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるよう十分に説明されていること」および「質疑に対する会社側の回答が十分満足できること」が共に最も高く評価された。また、説明資料等において、「実績および計画ベースの利益増減要因が、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」が同得点第 1 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。これに関し、利益増減要因の詳細な説明が分かりやすいとの声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、4 項目共に最も高い評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目（例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報）について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が評価された一方、「目標とする経営指標等」及び「資本政策、株主還元策の開示」の 2 項目については、共に第 6 位にとどまった。これに関し、減配と計画未定を指摘する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ウェブサイト、TDnet 等で有用な情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること、また、E-mail を利用して公開情報の提供を適切に行っていること」が評価された。これに関し、技術説明会を評価する声が寄せられた。

第 3 位 デンソー（総合評価点 76.6 点〔昨年度比－0.8 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（80%）、説明会等（79%）が第 3 位、自主的情報開示が第 4 位（76%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 5 位（66%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 10 位（91%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR 改善の努力が十分であること」が高い評価となった。これに関し、IR 部門による事業部門とのミーティングの開催やアナリスト・投資家との対話を評価する声がある一方、経営トップの関与を望む声も寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、説明資料等において、「実績および計画ベースの利益増減要因が、継続性にも配慮し、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」が同得点第 1 位となった。また、説明会等において、「質疑に対する会社側の回答が十分満足できるものであること」が同得点第 2 位となった。

これに関し、決算説明会の質疑応答の公表を評価する声が寄せられた。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトにて、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていること」、「ウェブサイトや説明会資料等の英語対応」および「説明会のリプレイが、説明会終了後、電話やウェブキャストで視聴等できること」が共に満点評価となった。これに関し、英語版の資料の充実を評価する声が寄せられた。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、この分野で第 5 位の評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「非財務情報（統合報告書、ファクトブック、ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が高い評価となった。これに関し、統合報告書を評価する声が寄せられた。また、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」も第 3 位となった。これに関し、2019 年 12 月開催の事業説明会／テクニカル懇談会を評価する声が寄せられた。

以 上

2020年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (自動車・同部品・タイヤ)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャ-		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	7282 豊田合成	79.1	18.1	2	16.0	2	10.1	5	17.8	1	17.1	3	2
2	7270 SUBARU	78.5	18.7	1	16.4	1	10.3	1	17.0	3	16.1	5	1
3	6902 デンソー	76.6	17.5	3	15.7	3	10.0	10	16.6	5	16.8	4	3
4	7201 日産自動車	75.7	17.1	4	13.8	15	10.3	1	16.7	4	17.8	1	未実施
5	7261 マツダ	72.9	16.2	9	15.2	5	10.1	5	15.9	8	15.5	7	8
6	7203 トヨタ自動車	72.7	15.5	11	14.9	7	10.3	1	14.4	15	17.6	2	6
7	7267 本田技研工業	71.6	16.5	7	14.7	8	10.1	5	14.6	14	15.7	6	12
8	7272 ヤマハ発動機	70.3	16.9	5	13.9	13	10.1	5	17.1	2	12.3	14	4
9	7259 アイシン精機	70.0	16.4	8	14.6	9	8.9	14	15.8	9	14.3	10	11
10	6201 豊田自動織機	69.6	16.9	5	15.1	6	8.7	16	13.6	18	15.3	8	9
11	7211 三菱自動車工業	69.5	15.8	10	15.6	4	10.2	4	15.0	10	12.9	12	5
12	7269 スズキ	68.2	15.5	11	14.3	10	10.1	5	14.3	17	14.0	11	15
13	5108 プリヂーストン	68.1	15.3	13	12.4	19	10.0	10	16.0	7	14.4	9	7
14	7202 いすゞ自動車	64.0	14.7	14	14.3	10	9.0	13	16.4	6	9.6	20	10
15	5110 住友ゴム工業	63.5	13.5	17	13.0	16	10.0	10	14.4	15	12.6	13	13
16	3116 トヨタ紡織	61.7	13.4	18	13.0	16	8.7	16	14.7	13	11.9	15	17
17	5101 横浜ゴム	60.3	13.9	15	14.1	12	5.9	20	15.0	10	11.4	17	14
18	7205 日野自動車	60.0	13.0	19	13.0	16	8.9	14	14.9	12	10.2	18	16
19	7240 NOK	58.3	13.8	16	13.9	13	8.0	18	12.5	19	10.1	19	18
20	7276 小糸製作所	53.5	12.2	20	12.2	20	6.7	19	10.8	20	11.6	16	19
	評価対象企業評価平均点	68.26	15.55		14.32		9.33		15.19		13.87		

2020年度評価項目および配点(自動車・同部品・タイヤ)
【評価対象期間:2019年7月～2020年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (22点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどうか評価しますか。(経営トップの参加、IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積への支援等)	12
②社長またはCEOが会社主催の説明会(テレフォンカンファレンスを含む)に必要な応じて適宜出席していますか。	2
(2)IR部門の機能	
①IR部門への十分かつ正確な情報の集積度、アクセスの容易性、IR部門以外へのアレンジ機能は十分ですか。	4
②アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR改善の努力は十分ですか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (20点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	7
②質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	7
(2)説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
①事業種類別および地域別セグメント情報は、継続性にも配慮し、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	3
②実績および計画ベースの利益増減要因は、継続性にも配慮し、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー (11点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払い、情報開示を積極的に行っていますか。	5
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトに、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていますか。	1
(3)外国人投資家向け情報提供	
・ウェブサイトや説明会資料等の英語対応がなされていますか。	2
(4)説明会のリプレイについて	
・説明会のリプレイは、説明会終了後電話やウェブキャストで視聴等ができますか。 [4回すべて視聴できる:3点 2回のみ視聴できる:2点 1回のみ視聴できる:1点 視聴できない:0点]	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (25点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	5
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画(例えば、営業利益率、ROE等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	10
(3)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策および配当政策・自社株買いなどの株主還元策の考え方を十分に説明していますか。	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (22点)	配点
①ウェブサイト、TDnet等で有用な情報(注)がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。また、E-mailを利用して公開情報の提供を適切に行っていますか。	6
②工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	10
③非財務情報(統合報告書、ファクトブック、ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか。	6

(注) 有用な情報については、【業態】毎に、
【自動車メーカー】：地域別小売台数、輸出台数、生産台数等(月次情報・四半期情報)
【同部品メーカー】：ユーザー別および製品別売上高等(四半期情報)
【タイヤメーカー】：地域別の本数出荷、新車・市販の内訳等(四半期情報)。

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部 会 長	箱守 英治	大和証券
部会長代理	高橋 耕平	UBS 証券
	岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	北川 知明	三井住友 DS アセットマネジメント
	梶本 将隆	野村証券
	坂口 大陸	みずほ証券
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（21名）

秋田 昌洋	クレディ・スイス証券	高田 悟	ティー・アイ・タワリユ
伊藤 辰彦	みずほ証券	高橋 耕平	UBS 証券
岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	田中 健司	アセットマネジメント One
江口 由紀	野村アセットマネジメント	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント
北川 知明	三井住友 DS アセットマネジメント	成瀬 伸弥	岡三証券
梶本 将隆	野村証券	箱守 英治	大和証券
小西 慶祐	QUICK	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
坂口 大陸	みずほ証券	八木 啓行	富国生命投資顧問
坂牧 史郎	大和証券	山岡 久紘	野村証券
菅原 繁男	SOMPOアセットマネジメント	吉田 有史	シティグループ証券
杉本 浩一	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。